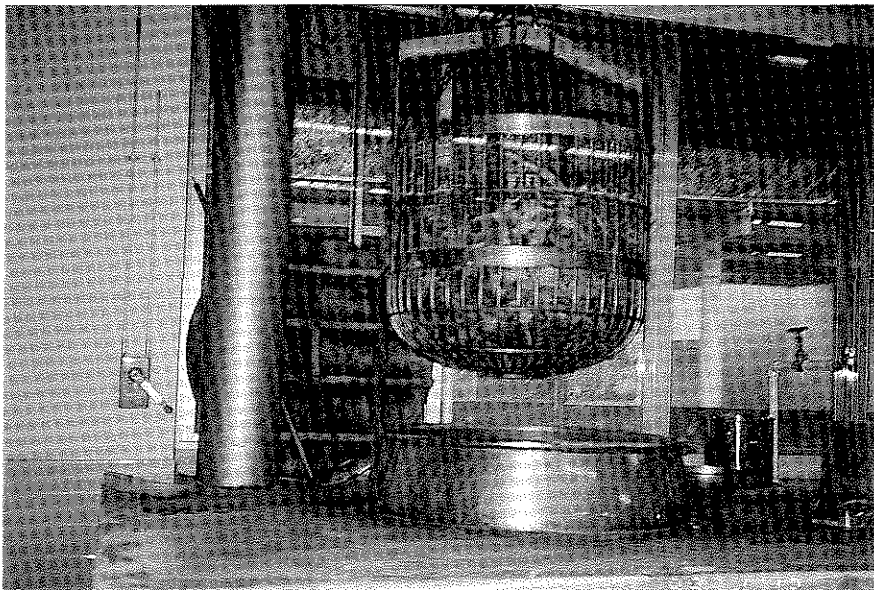


## 2. 4 泥染めの技術

泥染めについてももう少し詳しくみてみたいと思います。まず、泥染めは文字どおり田圃の泥で染めるのですが、泥につけこんで染める前にしゃりんばい染液で染めておきます。

### 2.4.1 しゃりんばい液の抽出

生育20～30年、幹の径5～10cmのしゃりんばい原木を皮ごと細かく刻みます。昔は斧で刻んだのですが昭和50年代から殆ど機械で刻む方法に変わってきました。厚さ5～10mmのチップ状に碎断します。このチップ300～500kgを釜の中で煮ます。煮出す際の水量は釜の中のチップの表面を完全に覆うように入れます。原木1kg当たり重ソウ1.5g程度を添加します。朝、火を焚きつけて沸騰を続け、水量が減少すればそのつど水を加え、夕方まで約10時間煮つづけます。チップを取り上げ1晩放置します。余熱で蒸発し翌朝煮出し液はかなり減少していますので、原木1kg当り3～4ℓになるよう水で希釈します。そのまま2日ぐらい放置し、pHが5に低下したところで染色に用います。



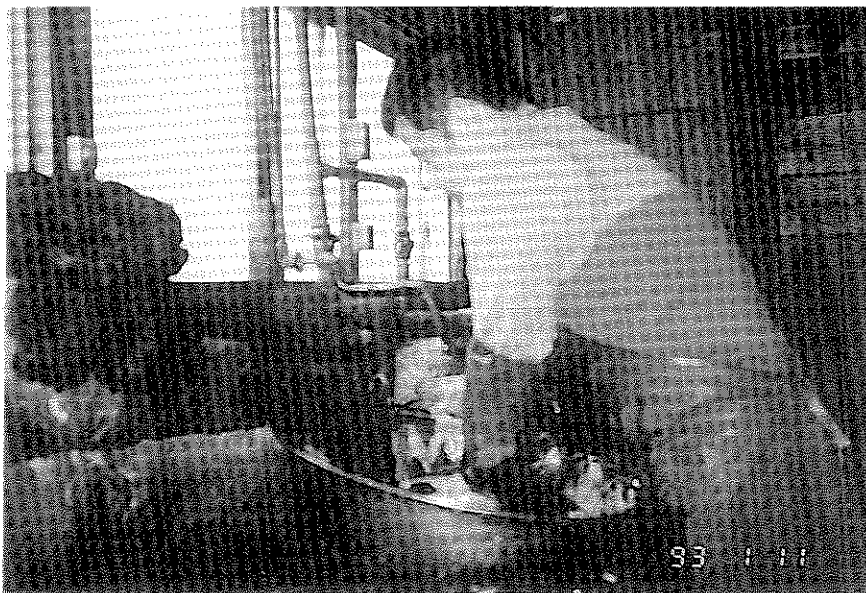
しゃりんばいチップの煮出し釜



しゃりんばいのチップ

#### 2.4.2 地糸の泥染め

被染物を染め鍋にいれ、煮出したしゃりんばい染液の3～5倍量を注ぎかけ、揉み込みながら染色します。5分くらい揉み込むと新しい染液と取り替えて揉み込みます。



しゃりんばい染液による揉み込み染め

地糸の染色は次の工程に従います。

(2番液) → (2番液) → (2番液) → (2番液) → (乾) →  
(染) → (石) → (染) → (染) → (染) → (石) → (染) → (染) → (染)  
→ (石) → (染) → (染) → (染) → (乾) →  
(熱) → (石) → (染) → (染) → (染) → (石) → (染) → (染) → (染)  
→ (石) → (染) → (染) → (染) → (乾) →  
(熱) → (石) → (染) → (染) → (染) → (石) → (染) → (染) → (染)  
→ (石) → (染) → (染) → (染) → (乾) →  
(熱) → (石) → (染) → (染) → (染) → (石) → (染) → (染) → (染)  
→ (石) → (染) → (染) → (染) → (乾) → (泥) → (熱) → (泥) →

\* (2番液) いっぺん染色に用いたしゃりんばい染液を廃棄せず溜めておいた  
染液(2番液という)で揉み込み染めをします。

(染) 新しいしゃりんばい液で揉み込み染めをします。

(石) 石灰液で揉み込み処理をします。



泥 染 め

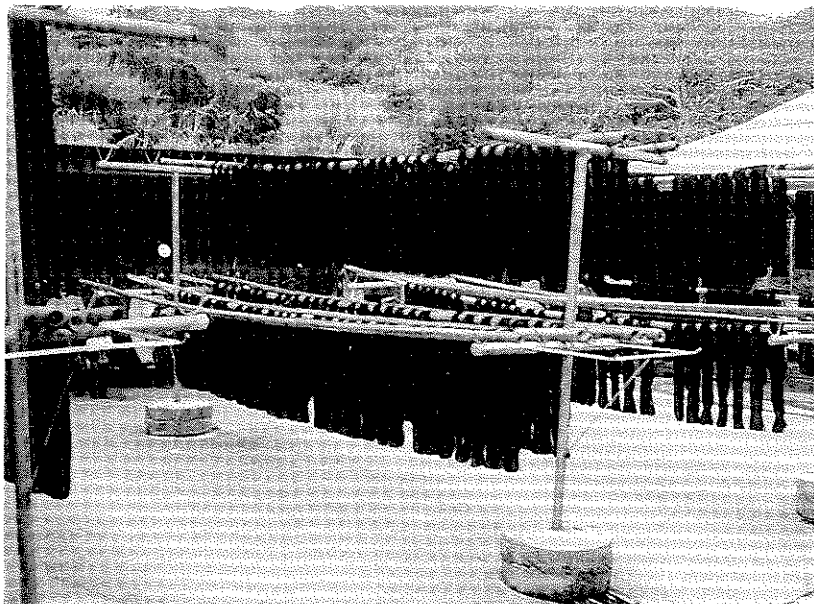
(乾) 乾燥します。

(熱) しゃりんばい液に漬け80℃ぐらいに加熱します。

(泥) 田泥に漬け、ふりつけ染色します。

しゃりんばい染液で3～5分揉み込むとやがて泡が出てきます。その時点でしゃりんばい染液をとりかえます。浴比20倍、0.1～0.5%石灰液に漬けこんで振りつけます。石灰液に漬け込むことでしゃりんばいで染色した絹糸は赤みがかつた濃褐色に変わっていきます。石灰を用いず、しゃりんばい液だけで染色をつづけると200回染液を更新してもなかなか濃褐色になりません。石灰液は固着剤ないし媒染剤として大きな意味をもっています。絹糸が濃褐色に染まったら十分に乾燥します。乾燥が終わったら田圃の泥で染めます。

田圃の泥で染色するときは、ごみが絹糸につかないようざるか網を張った箱状のふるいを泥水に漬け、そのなかでしゃりんばい染液で濃褐色に染めた絹糸を激しく振りつけます。糸を絞り、はたき、十分空気酸化をしてから再度三度泥水の中に振りつけます。何べんも絞り、はたいているうちに濃褐色の絹糸は泥染め特有の黒色にかわっていきます。このように田泥で染めた絹糸は水で十分洗い、余分の泥や汚れを除いてきれいにします。さらにしゃりんばい液で煮



泥染め糸 干し

沸に達しない程度に加熱したあと放冷します。これを乾燥せずそのまま田泥で染色し、真っ黒に染めあがると染色を終了します。

実際にはしゃりんばいで染色する前に藍下といって、藍染めしてから地糸染めにまわすのが多いようです。



しゃりんばい

#### 2.4.3 緋莖の泥染め

緋の染色工程は次のとおりです。緋莖の泥染めは一般に地糸よりも難しいとされています。緋が鮮明に出るか、毛羽だちや糸切れがなく均一に染められるか、地糸より染色工程も長く手間がかかり熟練を要するのです。まず、緋莖糊抜きを十分に行います。染色の成否はこの前処理の糊抜きを十分に行ったかどうかできまるといわれるくらいです。

緋莖を一晩水に漬け、糊をおとします。緋莖を筒状にまるめ、両端をもって突き洗いをくりかえします。糊がきれいに落ちたかどうかは洗うときの手触りと緋莖を絞り、拵げ、明るいところへかざして見て、地の部分がいちように透きとおる感じになることで分かります。

## 緋染色工程

(染) → (石) → (染) → (染) → (染) → (石) → (染) → (染) → (染)  
→ (石) → (染) → (染) → (染) → (石) → (染) → (染) → (染) →  
(石) → (染) → (染) → (染) → (石) → (染) → (染) → (染) → (石)  
→ (染) → (染) → (染) → (乾) → (泥) → (洗) →

(染) → (石) → (染) → (染) → (染) → (石) → (染) → (染) → (染)  
→ (石) → (染) → (染) → (染) → (石) → (染) → (染) → (染) →  
(石) → (染) → (染) → (染) → (石) → (染) → (染) → (染) → (乾)  
→ (染) → (洗) →

(染) → (石) → (染) → (染) → (染) → (石) → (染) → (染) → (染)  
→ (石) → (染) → (染) → (染) → (石) → (染) → (染) → (染) →  
(石) → (染) → (染) → (染) → (乾) → (染) → (洗) → (熱) → (染)  
→ (洗) →

しゃりんばい染液の浴比は3倍，揉み込み操作は緋糸を傷つけないようにか  
るくおさえるようにして2～3分行います。石灰液は0.1～0.5%の水溶液をよ  
くかきまぜて石灰が粉末のまま糸に付着しないよう気をつけます。緋莖は完全  
に乾燥させてから田圃へもっていきます。緋莖はしわくちゃにならないようき  
れいに拵げ延ばした状態で乾燥させます。田圃では緋莖を泥水に浸透させたあ  
と筒状に握り，少しひねるようにしながら縦つきします。適当に緋莖を揉み込  
んで芯まで泥水がとおるようにします。緋莖の耳部をこすりすぎて傷つけない  
ように注意し，緋莖全体をひとつおり泥水で染色後水洗して絞る，十分に空気  
酸化させます。この段階で濃褐色から黒色に変わります。これがしゃりんばい  
泥染めの1工程ですが，これを3～4回繰り返すと泥染め独特の黒色と風合い  
が得られます。

しゃりんばい泥染めにおいては絹糸の増量が著しく増加します。これによっ  
て本場奄美大島紬の独特の風合いや光沢が作り出されるのですが，摩擦堅ろ

う度等への影響を考えると緋糸については20%、地糸については40%が適当な重量増加率です。電子顕微鏡写真から明らかなように(写真参照)しゃりんばい泥染め糸は色素や金属がレーキを形成し繊維を被覆しています。表面の不完全に染着している部分や泥土中から付着してきた不純物を取り除くため中性洗剤0.1~0.2%溶液でソーピングを行い水洗します。こうすると摩擦堅ろう度も少し向上します。



緋筵のしゃりんばい液染め

#### 〈しゃりんばい〉

ばら科しゃりんばい属しゃりんばい 学名 RHAPHIOLEPIS UMBELLATA MAKINO. 方言 てーちぎ。暖かい土地の海岸付近に生える常緑低木または小高木で庭木にも使用されます。樹高1~4 mになります。4月~5月頃に白色のかわいい花が咲きます。9月~10月頃果実が黒紫色に熟します。ほそばしゃりんばいとながばしゃりんばいがあります。

しゃりんばいの染着成分はタンニンとよばれています。タンニンは皮をなめすものの総称です。植物に広く存在し、収れん味を有します。しゃりんばいタンニンはフラバンジオール的二量体、三量体を主成分とするポリフェノールであることが分かってきました。しゃりんばいを朝から晩まで煮沸を続けて抽出液をとるのは重合を進行させるためではないかと考えられています。しゃりんばいを細かくチップ状にして煎出すると2~3時間でタンニンの抽出の増加は

停止します。それにもかかわらず煮沸を続けるのは何のためか長いあいだ分かりませんでした。



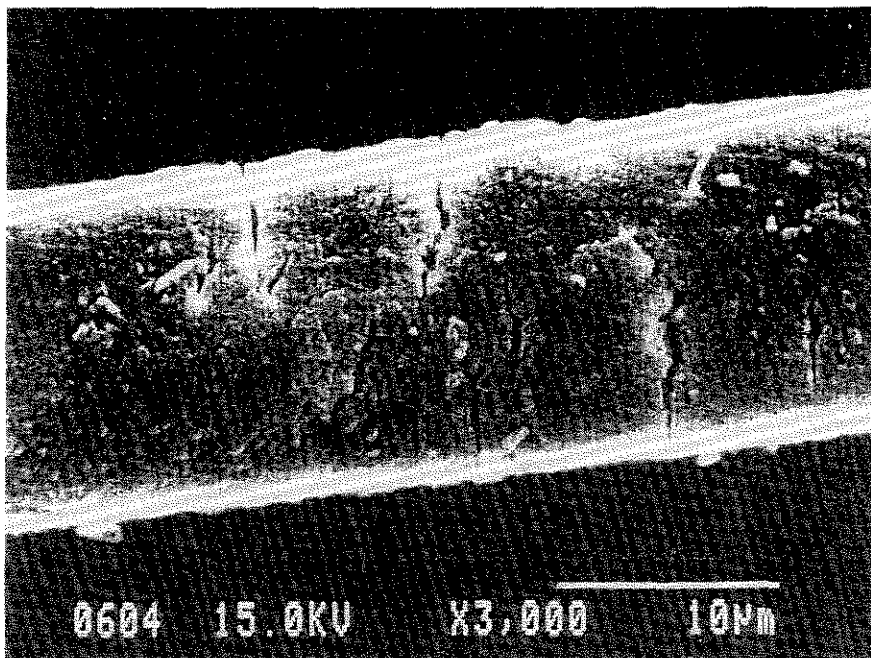
しゃりんばい原木

現在、奄美には次のような泥染め工場があります。<sup>11)</sup>

工場名(氏名)	住 所	電 話
生 田 一 雄	名瀬市有屋	0997-5 2-0 0 4 4
森 田 定 彦	名瀬市仲勝	0997-5 3-0 5 7 8
生 和 美	名瀬市有屋	0997-5 2-1 4 4 5
生 田 範 男	名瀬市小浜町6-5	0997-5 2-4 6 8 4
栄 兼 次	名瀬市安勝町13	0997-5 2-3 0 5 8
永 田 教 夫	名瀬市古田町5-2	0997-5 2-8 1 1 8
野 崎 忠 昭	名瀬市鳩浜町127	0997-5 3-5 6 8 3
野 崎 松 夫	名瀬市鳩浜町126	0997-5 2-8 4 2 4
元 野 達 義	名瀬市仲勝290-1	0997-5 3-5 7 1 0
新 島 純 俊	大島郡龍郷町大勝	0997-6 3-2 8 9 7



里	和也	大島郡龍郷町大勝	0997-62-3040
南	重喜	大島郡龍郷町大勝	0997-62-3044
西	島常仁	大島郡龍郷町中勝	0997-62-3438
肥	後良二	大島郡龍郷町戸口	0997-62-2162
金	井一人	大島郡龍郷町戸口	0997-62-3572
柳	原利光	大島郡龍郷町浦	0997-62-3001
前	田博仁	大島郡龍郷町浦	0997-62-3179
嘉	納幸一郎	大島郡龍郷町嘉渡	0997-62-4365
西	田清一	大島郡龍郷町龍郷	0997-62-3223
稻	牛憲	大島郡笠利町辺留	0997-63-9043
積	良一	大島郡笠利町須野	0997-63-9030
松	山重治	大島郡笠利町須野	0997-63-8866
中	村八十夫	大島郡笠利町笠利	0997-63-8618
対	知広夫	大島郡笠利町笠利	0997-63-9208
松	元邦典	大島郡笠利町笠利	0997-63-9158
(株)	泥染屋	大島郡笠利町笠利	0997-63-8215
肥	後基樹	大島郡笠利町笠利	0997-63-8122
植	田清二	大島郡笠利町笠利	0997-63-9412
植	田正輝	大島郡笠利町笠利	0997-63-8077
日	高英雄	大島郡笠利町笠利	0997-63-8609



泥染め糸の電子顕微鏡写真



泥染め工場